



# 第76回NM-GCOEセミナー

## 松尾 壽之 先生

(国立循環器病センター・名誉研究所長)

2012. 5. 21  
理学部生物地学  
共通講義室

### 「Discovery と Innovation」 - 私の経験に想う -

今回のセミナーでは松尾壽之先生をお招きして、「discovery と innovation」というテーマでご講演頂きました。先生のこれまでの研究生活で培われたたくさんのご経験・ご教訓をお話し頂きました。非常に濃密な内容で、これから研究を志す私たちにとりまして、とても有意義なご講演となりました。

先生は世界に先駆けてトリチウムを用いたペプチド C 末端の構造決定法を開発されましたが、「手法を世界に広めるためには自らその有効性を証明しなければならない」という赤堀四郎先生のご助言を受けて、Shally 博士との出会いを果たします。先生はこの出会いを「天」からの授かり物である、と仰っていたのがとても印象的でした。そして Shally 博士の研究室での LH-RH ペプチドの構造決定から、その後の多数の新規ペプチドホルモンの発見、新薬開発への発展に至る過程で、直面した困難や問題点をどのように克服していったかをお話くださいました。Shally 博士から与えられたわずかな LH-RH から得られた結果を無駄にせずにとことん突き詰めた結果トリプトファンを見いだされた事、LH-RH の構造が決定して帰国した後、一旦「時が熟するのを待って」ペプチド解析法の再検討を行ったことで、その後の新規ペプチドの発見や機能解析に結びついた事など、一つひとつの曲がり角に対して次の一手を繰り出す先生の感性の鋭さのようなものを強く感じました。新たに発見したペプチドを医療に応用する「innovation」の過程のお話では、基礎研究と応用研究がお互いに手を取り合って欠けているものを補う事の重要性を示唆してくださいました。

ご講演の後半で先生は「必ず出来るという保証は無い。安易なアナロジーは打ち碎かれる」と仰ってくださいました。未知からの開拓を目指す私たちにとっては何よりの励ましのお言葉であり、感激しました。今回のご講演を、是非今後の研究生活に活かしていきたいと思えます。永井 友朗 (生命科学研究所情報伝達分子解析分野)

#### 参加者の感想

松尾先生の輝かしい業績とそこに至るまでに経験してきた苦悩について聞くことができ、非常に興味深いセミナーでした。ペプチドホルモンを探索していくうえで、ライバルにはない技術、手法が確立できたことが重要であったと感じました。私自身もこれからの研究生活でそのような技術を身に付け、研究に生かしたいと思いました。



松尾壽之先生



先生の研究活動のご経験をもとに、基礎研究を実学に応用する事や、一つの現象を多面的に捉える事の重要性、難しさを御講演いただきました。松尾先生のお話を伺い、困難にぶつかった時にその壁を乗り越えてきたからこそ、これまでの素晴らしい研究成果に繋がったように感じ、粘り強さや発想の転換といったものが重要であるように感じました。後半のお話にあった、「未知への挑戦」で頂いたメッセージを心に受け止め、今後の研究活動を行いたいと強く感じた講演でした。



恩師の松尾先生です。

水野健作教授



固定観念に捕われず、自分らしいものを自分らしくやっていく・・・。一つ一つのお言葉が心に沁み亘るセミナーでした。(支援室)